

成果指標				
成果指標	支給金額／認定金額×100			
指標設定の考え方	認定された申請者に対し、適切に扶助費を支給する。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	100%	100%	100%	0
実績	100%	100%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	5	A
		コスト効率	5	
		受益者負担の適正	5	
課題認識	経済的理由による就学困難と認められる児童の保護者に対し、必要な費用を援助することにより、就学費用の軽減を図ることができた。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	生活保護・準要保護世帯、並びに障害のある児童の世帯に対して、必要な費用を援助することにより、保護者の負担を軽減して子育て支援に寄与した。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題